


「美味しく楽しくご飯を食べてほしい」


下石畑さんの強い思いです。

施設では月に何度かイベント食も提供しておりますが、「イタリアンであれば少し大きめのお皿がいかしら?」「祝い膳ならお重を使おうかしら」など「まずは食器よ!」と、あれこれ楽しそうに選んでくれています。おかげでいつもとは雰囲気の違うレストランや料亭のような雰囲気を利用者様に味わっていただくことができています。


また食感や食べやすさにも気を配り、同じ料理に使う野菜は大きさを揃えて切る、食感や彩りを残すため煮すぎない、歯が弱く噛みきれない方には隠し包丁を入れるなど、細かい部分にも余念がありません。



また「〇〇さん、最近、少しむせこむことが多くなってきた気がするわね」という介護スタッフの声を耳にし、「だったらあんかけなどで少しとろみを付けてみまじょうか?野菜も今までより少し小さめにしてみますか?」など、介護スタッフと一緒に考えてくれます。



下石畑さんの目はそれだけにとどまりません。ある日、厨房から「〇〇さん、どうされましたか?」と下石畑さんの声がありました。そこには足の不自由な利用者様がいらっしやり、お一人でお手洗いに向かわれようとしていました。近くにいた介護スタッフが急いで近づき「気づかずに失礼致しました。ご一緒いたします」と声をかけました。下石畑さんが気がつかなければ転倒していたかもしれません。その後「助かった〜。下石畑さん、ありがとう!」とスタッフから厨房へ。いい連携ができていいるなあと感じました。



もう10年以上のベテランで、いつも「利用者様のために何かできないか?」と考えてくれています。そんな下石畑さんの作るご飯は、本当に美味しくて心も身体も温まります。



食ほひの
たほり
すべりの
利用者様
に
美味い
お届け
した

